

五月三〇日

小雨、昨夕のうちに拵げた畑に農作物や花の種をまいておけば良かったと悔やむ。たった十米の高度差でも屋上の風と地上の風とは温度も強さも異なるのを昨日実感した。屋上には能登の間垣のような竹の防風防日射しの垣根を作るのが理想だろうが、周囲に自然植生の竹ヤブがあるわけじゃなし、誰か二〇〇本程度の竹をゆずつてくれる人はいないかな。利根町の佐藤さんに頼んでみるか。あそこなら竹林が多いから、何とかなるかも知れない。あるいは馬場昭道だなコレワ。

十四時研究室。北京プロジェクトチエック。明日迄にはまとまるだろう。モスクワより連絡あり、文化センターのサイトが具体的に幾つか絞られてきた。MAZDAのロシア企業ディーラー参入の件は、競争が厳しそうだ。MSP社長野口氏には御足労をかけている。オイルと自動車は基幹産業だから、新規参入は熾烈な競争であるとの事。そうだろう。李祖原と連絡。日本の外の仕事が進んでいるが足を地につけて行きたい。十八時迄北京プロジェクトのモデル作りをチエックしたが、意を決して今日中にまとめる事にした。つきつきりで夕食も抜いて、モデル製作。二十三時過、なんとかまとめる。全長七百米、高さ百二〇米程の計画となった。明日、写真を撮って、夕方打合わせの予定。もう少し、高さを抑えた案を作っておいた方が良さそう。二十四時十五分世田谷村に戻る。二十四時三〇分、軽く夜食を取る。

五月三十一日

一時、就寝する。頭の中にまだ色々なモノが出没して仲々眠る事ができない。八時過起床。十時研究室。学部レクチャー準備。十四時四〇分レクチャー。マイノリティーの建築。デザインの問題の前に、社会、歴史観を前提とした主題の問題があるだろうという講義。十二時十五分迄。北京計画の模型写真をチエック。撮り直し。明日から六月だ世田谷村日記のスタイルを少し計り変えよう。前からスーツと考えている事なのだがこれが難しい。

十六時モスクワより今日戻った。社若松氏来室。モスクワでの幾つかの物件の相談。まだまだロシア風に荒っぽい話だが、少し細部が出てきたのが進化である。十九時迄。二〇時過研究室の博士課程カナダ国籍の中国人、蔡さんと新大久保駅前近江屋で夕食。蔡さんには最近の中国、台湾とのやり取りのシビアなトランスレーションをお願いしているので、一度、御礼をしたいと思っていた。蔡さんは不思議極まるインテリジェンシーの持ち主である。三島由紀夫の研究者でもあり、ブディリストでありながら単純なニヒリズムに落ち込まぬ複雑さも所有している。様々な体験を経ているのだろう事は充分に察しられる。二〇代の日本人学生の平板さ比べれば話しをしていても当然の事ながら歯応えがあるのだが、何故、蔡さんは存分に建築デザインに紆余曲折しながらも突き進まぬのが良く解らぬママだ。決断する事の粗雑な無謀さを恥じているのだろうか。一人一人の人間を深く見据えようとすれば、一人の人間が備えている膨大無限な細部の影の細妙さに、実にそれこそボー然とするばかりだ。いささか学生としては時の積み重ねを肩に背負い過ぎているようにも思う。この人物を。モスクワに力づくで突込んでみるかという、我ながら妙な情動が湧いてくる。他人の人生に踏み入って、その敷かれたレールを切

り換えるデザイン程、面白い事は無い。今日で、早、五月も終わった。面白くもあり、たまらなく退屈でもあった五月だった。

山本夏彦は「旅をしても、ロバはロバのまま帰る」と、多分ディテールは違うが言った。翁独自の名言だと心服していたのだが、今日、祭さんから「牛到北京還是牛」という言が台湾にあるのを教えられた。要する到北京にまではるばる行っても、牛は牛のまま戻ると、夏彦翁のロバが、牛に取って代わっただけの事である。私の貧しい英語で何をしたってロバはロバのママだの、笑えるニヒリズムを伝えたら、たちどころに中国の牛が返されてきたのが、蔡さんの力である。彼の淡々とした、何の答えも得ようとならない高等遊民のニヒリズムを感じられて、何やら得をした感があった。

二十三時前世田谷村。農文協の方から送られてきた。ダーチャの資料を読む。ダーチャは沖縄の自給自足菜園と同じだ。